



市議会を傍聴して

(原町区／田中京子さん)

大甕森合地区の山林の木が切り倒されて山肌が広範囲に現になり、関東からの産業廃棄物が処分されると聞き皆驚きました。これが私と議会傍聴の始まりなのです。

この度、産廃調査特別委員会を開いて頂き市議会と合わせて興味深く傍聴させて頂きました。ある一部の人で進められていた処分場建設、しかも持ち込まれるのは15品目(危険な物が含まれる)です。さらにこの場所は、県でも認めている地盤沈下地域でもあり、学校・幼稚園が近い。又、通学路が産廃物の搬入路となっているのですから大変心配です。

処分場には、二つの炉が設置され、大きな煙突が立ちます。埋め立て完了後もこの炉は使用され、煙を吐き続けるのです。又、産廃物は、下に15メートル掘り下げて、上は現在の鉄塔の半分位までごみの山になると聞いております。つまり森合・小浜・雫地区は、産廃場の中に住むようなものなのです。煙・地下水は、南相馬市全体の問題です。これらによる病気も大変懸念されております。

この建設には反対する市民の方々も多いです。これまでの議会を通して、感じることは、世は、「怨」(思いやり)と言うならば政治も又「怨」であると私は考えます。安心安全で住み良い南相馬市にするための政治を期待致します。

え直してみたい。

今村 裕

先日、久々に長寿番組の「サザエさん」をみた。相変わらず、お調子者のカツオ君、照れ屋でほのぼのとした、アットホームパパのマスオさん、昔気質のカミナリオやじ・波平さん、しつかり者のワカメちゃん、あわてんぼうのサザエさん、おっとり刀のフネ婆、忘れちゃいけないタラオにタマ。三世代が仲良く囲むちゃぶ台は、やもすると見失いがちな理想的な家族のすがたを映し出す鏡のような気がした。成長の止まった登場人物、今はあまり見かけない黒電話、自動車は持っていない。テレビをみていて、ふと親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた生活の知恵や習慣が、次第に失われてはいないかと考えさせられた。動物に「帰巢本能」があるように、人にも「帰省本能」があるのか、盆や正月、五月の連休に故郷に帰省する人が多い。帰省は、自分自身を見つめ直す時間を与えてくれる。そこに住み続けている者として、今一度、地方の魅力を考え直してみたい。

次回の定例会(予定)

- 6月10日(水)
本会議…議案の提出及び説明
- 6月15日(月)・16日(火)・17日(水)
本会議…一般質問
- 6月18日(木)
本会議…議案に対する質疑
- 6月19日(金)
委員会…総務、文教福祉、建設経済
常任委員会
- 6月24日(水)
本会議…委員長報告(質疑、討論、表決)

※この日程は変更されることがあります。
議会を傍聴する際には、日程をご確認下さい。

● 問い合わせ…議会事務局 ☎24-5311

● 市のホームページ

<http://www.city.minamisoma.lg.jp/>



新設された車いす用傍聴席

編集後記